

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年10月22日

計画の名称	中心市街地の交流拠点の形成とやすらぎや潤いを与える緑豊かないわきのまちづくり												
計画の期間	平成29年度	～	平成32年度	(4年間)	重点配分対象の該当								
交付対象	いわき市												
計画の目標	中心市街地において、本市の歴史的シンボルとなる公園の整備や、地区内の既存公園・緑地の再整備を行い、まちの魅力向上と共に安全・安心して暮らせるまちづくりを公園緑地の側面から支援し、中心市街地の賑わい創出を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,991	A	1,991	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)											
	定量的指標の定義及び算定式											
	定量的指標の現況値及び目標値			当初現況値		中間目標値		最終目標値				
1	中心市街地における主要歴史・文化施設の入込客数：1,226千人/年(平成27年度)から1,263千人/年(平成33年度)に増加させる。(37千人/年増)											
	中心市街地における主要な歴史・文化施設の入込客数			1226千人/年	1263千人/年	千人/年	1263千人/年					

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期 事後評価の実施体制 庁内検討会にて評価を行う。	事後評価の実施時期 計画期間が終了した翌年度 公表の方法 公式ホームページによる公表
○事業効果の発現状況 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	中心市街地内の「主要歴史・文化施設」では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、各種事業やイベントが軒並み中止や縮小となったことから、入込客数が大きく減少した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	都市型住宅や商業・業務施設が整備され、居住人口の増加やまちなかの活性化は図れた。
○特記事項（今後の方針等）	新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら、各種事業やイベントを実施していくとともに、新型コロナウイルス感染症収束後の入込客数の増加につなげていくために、非接触型のイベント等を実施していく。

